



上質な御影石を使用。「偲」と刻みました。上品で落ち着いた雰囲気のお墓所となりました。ゆったりとお参りできます。

ありがとう 一生懸命に生きてきた亡き人を、大切に守り繋ぐお墓。



洋型オリジナルデザイン墓石 黒御影石の墓石にカサブランカの花模様を彫刻。白御影石との調和がモダンで素敵です。

供養の形
完成した御墓所には一つ一つの思いが込められています。紹介させていただきます。



濃灰御影石を使用。伝統ある和型。家族の拠り所としてお参りしやすいフラットな御墓所です。

石碑と墓誌に柔らかな流線をデザインし高級黒御影石を使用。外柵の御影石の色合いが、墓石の黒を引き立てます。



墓所のリフォーム



墓石・墓誌・灯籠はクリーニング後 復元施工。綺麗になりました。



風化した大谷石の外柵を御影石に交換。北から昇った階段を無くして 石貼り仕上げ。お参りしやすくなりました。

墓所のクリーニング



灯籠の汚れを落としました。



敷き砂利部分に御影石を貼り、お手入れしやすくなりました。お墓全体のクリーニングを行い、文字の色を入れ直し、一段と明るい雰囲気になりました。

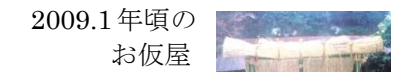
稲荷様



鳥居付御影石製 高崎市 梅山邸



2008.10.12 講日



2009.1年頃のお飯屋

本年 伊勢神宮参拝のお札



伝統を継承して伊勢神宮へ

中里町内に、百数十年前から「伊勢太々講」が行われている。講主方々伊勢神宮内宮長官が筆を執った「天照皇大神」の掛け軸を頂戴したことをきっかけに、伊勢神宮にお参りをし太々神樂を奉納することを目的にして講をつくったという。十年に一回、一月の講で、伊勢へ行き太々神樂を奉納してきたが、最近では五年に一回行われている。以前は、掛け軸を飾り、米・塩・魚等を上げて、外に藁と竹の「お飯屋」に藁で作ったご神体を安置。その前で飲食をして「お日待ち」をして、翌日一行が伊勢に参拝。徒歩で三日がかりで伊勢に着き、翌日神樂を奉納。地元に残った人は、一行が帰るまで毎日お飯屋で拝んだそうです。講の日は、毎年十月十二日。手作りのご馳走も、今では五目飯入りの仕出し弁当になりましたが、大根葉の漬物や質素なおかずに変わりなく、一つの膳を四人で囲み、農産物の出来や家中の話で盛り上がりま

2017.1.18 伊勢出発前



伊勢神宮



天龍護国寺庭園



清水寺にて



今年伊勢参拝の年。一月十八日、講中二十六人の内十二人が早朝六時講主方をバスで出発。その日の午後、伊勢神宮内宮を正式参拝、太々神樂を奉納しました。二日目、鳥羽温泉を後に伏見稲荷、護国寺や渡月橋を散策後、早めに京都駅近くのホテルに宿泊。三日目、三十三間堂や御開帳中の東寺を参観。八坂神社・京都清水寺や参道を歩き、清水坂にて京料理の昼食を頂く。観光地はどこへ行っても外国からの観光者が多く驚きます。着物のレンタルショップが目立ちます。日本人より日本人らしい和服姿の若者が冬の京景色を彩っているかの様です。無事の到着を講主に挨拶。「天照皇大神」を拝み散会です。後日、講主方で「万灯開き」が行われ質素なお膳を囲みながら伊勢への道中話しが弾みましました。講中へお札を配布し各家の神棚にお祀りいたします。

ちよい手間クッキング



油揚げ詰め込み煮
油抜きした油揚げを縦長の袋状に口を開きます。季節の野菜を行儀よく縦に詰め込みます。



人参・インゲン・野菜は茹でたもの。ソーセージや冷蔵庫の残り物。豆腐と卵を混ぜ合わせ流し入れて楊枝で止めます。だし汁と麵つゆで煮ます。冷ましてから形を整えて切りま



野菜の豚バラ巻き
もやし・貝割れ大根・細切り人参を豚ばら肉で巻く。オリーブオイルで焼きます。(チョット油がしつこい感)

物忘れはボケの始まりでしょうか？

あれ？それ？名前は？誰だ？物忘れぐらいはしたことがあると思うのです。笑ってすませるものから程度はさまざまです。昨日の夕飯のメニューをすぐに思い出せませんか？何を取りに来たのかしら？この程度の事は良くある事で、すぐに思い出せなくても大丈夫の様です。食事をしたことすら覚えていなくなったら問題です。K・K

